

旧防災対策庁舎のこれからを考える意見交換会について

1 日 時 令和6年5月24日（金） 午後6時から午後7時15分まで
2 会 場 役場マチドマ
3 参 加 者 70名
4 町側出席者 町長、副町長、総務課長、企画課長、建設課長、総務課課長補佐、企画課課長補佐、建設課課長補佐

（ご意見等）

- ・ 防災対策庁舎は、震災の良い意味でも悪い意味でも象徴的な建物であり、風化させないようにする必要があると思う。
- ・ 防災対策庁舎の近くに、石碑（庁舎で亡くなった人の名前を石に刻む）を整備すれば、皆さん気が震災を忘れないのではないか。
- ・ 祈りの丘に安置している名簿について、QRコードで見れるようにできないか。

（町回答）

- ・ 防災対策庁舎に石碑を建立することは、町としては困難だと考えます。例えば、各種団体等の判断で石碑設置を検討するのであれば、町との協議等は必要になりますが、可能だと考えます。
- ・ 現時点でのQRコードによる名簿公開には課題が多いと捉えています。今後の実現性については、将来的な検討と考えています。

（ご意見等）

- ・ 3つの意見から反対です。
1つ目は、急な判断・発表で困惑しているため、2つ目は、すでに被災した後だから庁舎の原型をとどめていないため、3つ目は、生きた証を残すことを考えてほしい。
- ・ 庁舎を残すのであれば、なぜあの場所で人が亡くならなければならなかつたのかを残していく必要があると考えている。

（町回答）

- ・ 1つのご意見については、町長が町有化にする経緯等でご説明したとおりです。
- ・ 2つのご意見については、どうしても鉄骨等のサビ・腐食が懸念されますので、これまで宮城県において工事をしていただき、可能な限り元の形を再現しています。
- ・ 3つのご意見については、防災対策庁舎に限らず、私たちが体験・経験したことは、事実・歴史として後世に教訓として残していくべきであり、そういった意味で、未来の命を守るためにも防災対策庁舎は保存すべきと考えます。

(ご意見等)

- ・ 観光客を防災対策庁舎に案内すると、「震災が実感にかかる」、「大変だったと再認識できる」といったお話をいただく。震災を忘れてしまい、風化は必ず起こるため、庁舎が残ることで震災を考えさせるきっかけになるのではないかと思う。長く残れば残るほど、その残し方等を考えていきながら、伝えていきたい。

(町回答)

- ・ 時間の経過とともに、風化を避けることは難しく、記憶や記録が薄れてしまったり、事実の正確性も確実性もなくなっていますので、これを防ぐためにも、震災伝承の在り方等について、今後も町民皆さまからご意見等をいただきたいと考えています。

(ご意見等)

- ・ これまでの復興のかたちは、町長が描いたとおりの復興だったか。
- ・ 現在、人口は減少しているが、1日でも早く町外の仮設住宅に住んでいる町民を町内に住ませてほしいとお願いしたが、なかなか難しいと言われた。当時よりも人口が5,000人程度減少しているが、現状は町長が描いたとおりの人口推移なのか。
- ・ 防災対策庁舎等に人を呼び込みための方法を教えていただきたい。
- ・ 防災対策庁舎に関して、今までに意見交換会というものはあったのかどうか。広報等ではなかったと思うが。
- ・ これから交流人口を増やしていくための方法はあるのか。

(町回答)

- ・ 過去の質疑等において、特に若い世代の意見が必要という話をしてきたところです。これまで意見交換会という名称で開催はしていませんが、町長が定例記者会見等でお伝えしたように、若い世代を含めて、様々な場・機会で様々な方からご意見を伺っております。
- ・ 被災した事実の教訓・伝え方としては、震災記録誌が完成し、図書館でも貸出していますので、町民の皆さんにも改めて震災の体験・経験を伝えていければと考えています。
- ・ 交流人口についても、復旧・復興を伝える様々な場面でも説明していき、震災あるいは防災・減災を基準とした交流人口の拡大に繋げていきたいと考えています。

(ご意見等)

- 震災復興祈念公園の植物状態が悪いと感じる。どこが責任もって管理しているのか。
- 植栽される木々の状態をきちんと管理していくことはできないか。
- 震災復興祈念公園は追悼・祈りの場でもあり、きちんと公園を管理していくことが大事になると思う。また、人の手だけでは維持管理は難しいと思う。

(町回答)

- 震災復興祈念公園は、町建設課で管理しています。植栽の管理については、技術的な部分も含め職員だけでは不十分もところもありますので、いただいたご意見については真摯に受け止め、今後対応していきます。

(ご意見等)

- 震災で経験してきたことをどうやって生かしていくのかに興味があります。防災対策庁舎を含む震災復興祈念公園一帯（ハード面）を、これからは、ソフト面として活用していくことはできないのか。

(町回答)

- 今後は、震災を伝承していく取組として、町民皆さんのお力も借りながら、旧防災対策庁舎周辺一帯をソフト面からも活用していくことを検討していきます。

(ご意見等)

- 震災で被災したことを取り上げられるとき、いつも防災対策庁舎が取り上げられてしまう。防災対策庁舎だけではなく、他にも大変だったことを伝えなければならないと思う。

(町回答)

- 震災では様々な場所で様々な出来事・ストーリーがあったことを、後世に伝え・残していくことは大切です。防災対策庁舎については、町民皆さんとの議論を積み重ね、1つのシンボルとして伝え・残していきたいと考えています。

(ご意見等)

- ・ 防災対策庁舎を残す意義はあると思う。また、町民全体での日の出来事をどうやって伝えていくのかが大切ではないかと考える。
- ・ 私たちは、100年後の命を守っていかなければならぬため、次世代に残していく言葉も一緒に考えていきたい。
- ・ 防災対策庁舎を見ただけでは伝わらないこともあると思う。例えば、防災対策庁舎で生き残った人がどういったものを見聞きしたのか、ご遺族の思い等を伝えるためには、人の言葉を聞くことによって伝わると思う。

(町回答)

- ・ 次世代のため、そして他の地域のためにも、100年後の命も考えなければならぬことについて、責任をもって伝えていく必要があると考えています。また、町の震災記録誌を作成していく上で、被災した方々やそれを支えてきた一人ひとりに様々な経験・体験があったことを改めて痛感しました。
- ・ 防災・減災といった言葉が最近使われていますが、さらにしっかりと繋げていき、最終的には「家族」が基本で大切であることを伝え、防災訓練等を通じ、家庭内でも震災のことを共有できればと考えています。今後とも、幅広く関係機関の助言をいただくなどしながら、様々な取組を展開してまいります。
- ・ 震災伝承は、防災対策庁舎1つで伝えきれるとは思っておりません。伝えていくためには、3.11メモリアル等で防災教育等を学ぶことも大切であり、また、語り部等で後世に残す・伝えることも大事であると考えます。